

感 染 症

相双地域感染症発生動向調査週報(2026年第4週)

(令和8年1月19日～令和8年1月25日)

令和8年1月29日

定点報告(上段: 定点当たり／下段: 報告数)、全数報告(報告数)		2026年					2025年 合計	2024年 合計
区 分	疾 病 名	1週	2週	3週	4週	合計		
定点報告	インフルエンザ	9.33	4.33	17.33	11.00	—	—	—
		28	13	52	33	126	2,558	1,616
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	2.67	3.67	4.33	3.00	—	—	—
		8	11	13	9	41	1,139	3,622
	RSウイルス感染症	—	—	0.50	—	—	—	—
		0	0	1	0	1	156	309
	咽頭結膜熱	—	1.00	—	—	—	—	—
		0	2	0	0	2	78	337
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50	2.50	1.50	2.50	—	—	—
		1	5	3	5	14	243	657
	感染性胃腸炎	0.50	5.50	4.50	4.00	—	—	—
		1	11	9	8	29	430	610
	水痘	—	—	0.50	—	—	—	—
		0	0	1	0	1	10	6
	手足口病	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	15	952
	伝染性紅斑	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	141	0
	突発性発しん	—	0.50	—	0.50	—	—	—
		0	1	0	1	2	59	182
	ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	4	19
	流行性耳下腺炎	—	—	—	0.50	—	—	—
		0	0	0	1	1	10	13
	急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	2	9
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	1.00	—	1.00	—	—	—
		0	1	0	1	2	16	1
	クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	—	2.00	1.00	—	—	—	—
		0	2	1	0	3	42	16
	無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ入院	1.00	—	1.00	—	—	—	—
		1	0	1	0	2	39	19
	新型コロナウイルス感染症(入院)	1.00	—	—	6.00	—	—	—
		1	0	0	6	7	56	120
	急性呼吸器感染症(ARI)	45.33	51.67	64.00	85.33	—	—	—
		136	155	192	256	739	8849	—
全数報告	百日咳	0	3	0	0	3	141	0

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	インフルエンザ の流行が見られます。
インフルエンザ	相双地域は前週と比較して減少しましたが、県(県内総数)は前週と比較して増加しました。 本県における令和8年第4週の定点当たり報告数は15. 50と、2週連続で前週の報告数を上回りました。第1週に警報は解除されましたが、第4週で定点当たり報告数が10を上回ったため、 <b>再び注意報が発令されました</b> 。B型の報告数が約75%を占めています。インフルエンザウイルスに感染すると、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が現れ、喉の痛み、鼻汁、咳等の症状も見られます。子どもは、まれに急性脳症を発症し、高齢者や免疫が低下している方は肺炎を伴うなど重症になることがあります。今後の急激な感染拡大を防ぐため、引き続き基本的な感染対策の徹底をお願いします。
新型コロナウイルス感染症	相双地域は前週と比較して減少しましたが、県(県内総数)は前週と比較して増加しました。 前週と比べ増加しており、全国と比べると報告数が多い状況にあります。インフルエンザと同様、基本的な感染対策の徹底をお願いします。
RSウイルス感染症	県内で3週連続で増加しています。 RSウイルス感染症はRSウイルスによる呼吸器感染症です。飛沫感染や接触感染により感染し、4-6 日の潜伏期間の後、風邪様症状等、様々な症状が生じますが、特に1 歳未満の乳幼児の初感染では気管支炎、肺炎等症状が重くなる場合があり、注意が必要です。インフルエンザと同様、基本的な感染対策が重要です。また、重症化予防には妊婦や60 歳以上を対象としたワクチンが有効です。
クロイツフェルト・ヤコブ病	本県で1名の報告がありました。 クロイツフェルト・ヤコブ病は、脳に異常なプリオン蛋白が沈着することで脳神経細胞に異常が生じ、認知機能等の症状を来すプリオン病の一種です。孤発性(原因不明)、遺伝性(プリオン蛋白遺伝子の変異)、獲得性(プリオン暴露による感染)の3つに分類され、孤発性が7割以上を占めます。

引き続き感染拡大を防ぐため、咳エチケットや手洗いの励行、場面に応じたマスクの着用など、基本的な感染対策の継続をお願いします。  
福島県では、夜間や休日に急な病気や怪我でどうすれば良いか迷った時に、対処方法や受診可能な医療機関について相談できる相談電話窓口があります。  
「#7119」福島県救急電話相談 「#8000」福島県子ども救急電話相談 にご相談ください。

(参考・引用)福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2026年第4号